

## 平成 25 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

東京大学大学院理学系研究科 修士課程 2 年

仲谷幸浩

日本地震学会より海外渡航旅費助成金を頂き、2013 年 12 月 9 日から 13 日までアメリカのサンフランシスコで開催された American Geophysical Union (AGU) Fall Meeting に参加して参りましたので、ご報告いたします。

AGU Fall Meeting への参加は、昨年につき二回目でしたので、ある程度勝手を理解して主体的に参加することができました。学会初日の夜には、昨年出席することができなかった Ice Breaker に参加しました。様々な企業や学術団体の展示を見ることができまし、専攻の違う分野の方ともお話しする機会が得られました。

私の発表は、学会 4 日目のポスター発表でした。”Seismology Contributions: Mega-earthquakes”というセッションで、”Seismicity detection around the subducting seamount off Ibaraki in the Japan Trench using dense OBS array data”というタイトルで発表致しました。二時間半ほどの間に 10 人弱の方と議論することができました。その中には、事前に申し込みをした Outstanding Student Paper Awards (OSPA)の審査員の方もいらっしゃいました。初参加だった昨年は詳しく説明しようとするあまり、要領を得ない長い説明になってしまい、それを途中で指摘されることもあったのですが、今年はまず要点を説明した上で細かいところを議論できるように意識的に変えてみました。ただ伝えるだけの発表からは少し進歩できたかと感じています。具体的な発表内容としましては、沈み込む海山と地震現象との関係解明をモチベーションに、海山周辺での地震活動を推定するための手法とその一次結果を示しました。発表を聞いて下さった方は興味を持って質問して下さい、中でも学会直前まで粘って作成した図にコメントを多く頂いたことは、今後の修士論文を執筆する上で大変参考になりました。

口頭・ポスター発表を見て回って、今年の AGU Fall Meeting 全体を通して感じたことは、成因は異なるにせよ様々な地震活動に注目する研究が多いということと、私自身が行っている地震活動の自動検出研究に通じるような研究が多いということです。これまで試行錯誤しながらやってきた研究はやはり重要であるということ再認識させられましたし、勇気づけられもしました。それと同時に、注目している対象が世界的な潮流の中にあるという事実からも、一刻も早く成果をだし、これまで以上の努力をしなければ、と研究意欲を駆り立てられました。

最後になりましたが、日本地震学会による海外渡航旅費助成によって地球物理学における世界最大規模の学会である AGU Fall Meeting に今年も参加することができました。特に修士論文を控える今年参加できたのは、大変有意義でした。このような貴重な機会を与えて下さった日本地震学会および関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。